



JM4 Looper

取扱説明書

SDカードの特長については、弊社のウェブサイト www.line6.jp/Support/ (日本語)、www.line6.com/manuals (英語) で情報をダウンロードしてください。



取扱説明書は www.line6.jp/Support でご覧いただけます。

安全上のご注意



注 意

感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



警告：火災や感電の原因になりますので分解・改造は厳禁。修理・調整は販売店にご依頼ください。

警告：火災や感電の原因になりますので本機を雨や水がかかるところには設置しないでください。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

SERIAL NO: _____

本書の記載について:

このマニュアルに掲載されている写真、イメージ、登録商標、アーティスト名はそれぞれの所有者の権利に基づくものであり、このマニュアルではLine 6のデジタルモデリングテクノロジーを駆使し、独自に開発された音を適切に表現するためだけに使用されています。また、これらの写真、イメージ、登録商標、アーティスト名の使用において、いかなる協力やエンドースメントも関わるものではありません。



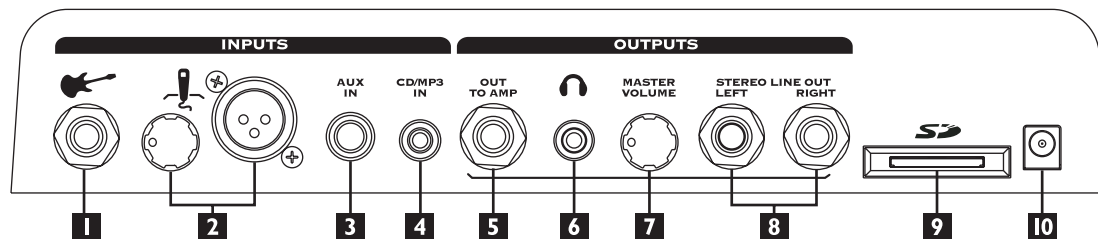
安全上のご注意を良くお読みください。この取扱説明書は大切に保管してください。



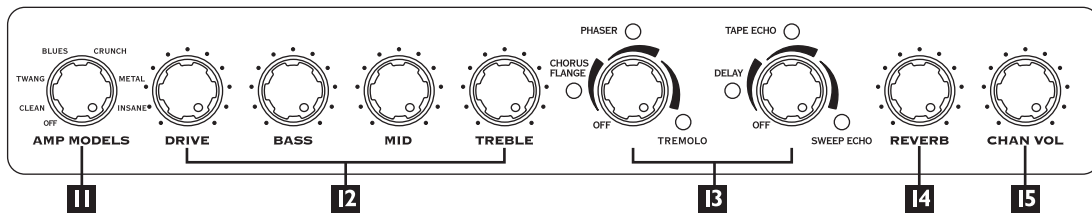
- 本書の注意事項を良くお読みください。
- 本書の注意事項を守ってください。
- すべての警告を守ってください。
- すべての指示に従ってください。
- 本機を水気の近くで使用しないでください。
- お手入れは必ず乾いた布で拭いてください。
- 通気口をふさがないでください。取扱説明書で指定された場所に設置してください。
- 適切にアース接地されたコンセントに接続してください。
- 本機の電源プラグが合わないような場合は、電気工事を依頼し適切なコンセントに交換してください。
- 電源コードの接続部を無理に曲げたり踏んだりしないようにしてください。
- 必ず指定された付属品を使ってください。
- 本機の設置は弊社の推奨するカート、スタンド、ブラケットなどを使用してください。移動式のカートを使うときは転んでけがをしないように注意してください。
- 雷が近づいたり、長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
- パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき、内部に異物が入ったり液体がこぼれたとき、本機を落としたときなど、修理が必要な時はサービスセンターに依頼してください。
- 水滴のかかる場所での使用や保管はしないでください。本機の上に花瓶のような液体の入ったものは置かないでください。
- 警告：火災や感電の原因になりますので本機を雨や水のかかるところには設置しないでください。
- 本機はコンセントの近くに設置し、容易にプラグへ手が届くようにしてください。
- パワーサプライのプラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 大音量や不快な音量で長時間使用すると難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。
- 次のような場合には修理が必要です。
 - パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき
 - 本機の内部に異物が入ったり、液体が入ったりしたとき
 - 雨天や湿度の高いところで使用し、故障したとき
 - 本機が落下したりして損傷したとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき



コントロール類と端子



1. **ギター入力端子** - ギターをここに接続します。ギター入力には専用のアンプとエフェクトが搭載されています。
2. **マイク入力 / [LEVEL] ノブ** - マイクをこのXLR入力端子に接続し、[LEVEL]ノブでゲインを調整します。マイク入力には独立したEQ、リバーブ、ディレイ、コンプレッサーのエフェクトが装備されています。
注: マイクを使用しない時は、接続されていないマイクのプリアンプからノイズが聞こえないよう、常にこのノブを左(反時計方向)に回し切っておいてください。
3. **[AUX IN] 入力端子** - 1/4インチの入力端子で、別のギターやマイク、その他任意のオーディオ音源を接続します。ここでの入力信号をギター入力と一緒に処理・録音するか、マイク入力と一緒に処理・録音するかを選択できます。
4. **[CD/MP3 IN] 端子** - 自分の好きな音楽やドラムマシンに合わせてジャムができるよう、オーディオソースをここに接続します。接続機器の出力コントロールで音量を調整します。
注意: 接続機器の音量を最小に設定してから音量調整を始めてください。この入力信号はレコーディングでマイク入力とミックスされますが、エフェクトなどの信号処理はされません。
5. **[OUT TO AMP] 端子** - 本機を楽器のアンプに接続します。
6. **ヘッドフォン端子** - 標準のヘッドフォンをここに接続します。接続時、[OUT TO AMP]端子からの出力は消音されます。
7. **[MASTER]ボリューム** - [OUT TO AMP]端子、[STEREO LINE OUT]端子の出力レベルを設定します。ノブを回すとディスプレイに現在の設定が表示されます。
8. **[STEREO LINE OUT] 端子** - ミキサー、PA、レコーディング機器、その他のライン入力機器に接続します。
9. **[SD] カードスロット** - 最大容量2GBまでの標準のSDカードを挿入して、本機の録音内容を保存したり、コンピュータとの間でデータのやりとりをします。SDカードの特長については、弊社のウェブサイトwww.line6.jp/Support/(日本語)、www.line6.com/manuals/(英語)で情報をダウンロードしてください。このスロットは、本機をコントロールするファームウェアを弊社工場でインストールする時にも使用します。
10. **電源端子** - 付属の9VAC電源コードを接続します。本機の電源を切るには、電源コードをコンセントから外します。



11. [AMP MODELS] ノブ - 12種類のアンプモデルの中から選びます。選択したアンプモデルに最適なトーンとエフェクトが自動設定されるので、そのまま演奏できます。このノブを回すと、現在選択されているアンプモデルの名前と、[DRIVE]/[BASS]/[MID]/[TREBLE]/[CHAN VOL]ノブの現在の設定がディスプレイに一時的に表示されます。ノブを左いっぱいに戻し切るとアンプモデルがオフになります。

12. トーンコントロール ([DRIVE]/[BASS]/[MID]/[TREBLE]) ノブ - [DRIVE]は普通のアンプのボリュームやゲインと同様で、サウンドを「濁らせる」量を設定します。[BASS]/[MID]/[TREBLE]ノブ設定は、各アンプモデルごとにカスタム化されているので、最適なトーンコントロールが得られます。任意のノブを回すと、ディスプレイには現在選択されているアンプモデルの名前と、[DRIVE]/[BASS]/[MID]/[TREBLE]/[CHAN VOL]ノブの現在の設定が一時的に表示されます。

13. スマートコントロールFX - この2つのノブで、簡単に迅速にエフェクトを選択します。FXノブA(左のノブ)でコーラス/フランジ、フェイザー、トレモロから選択し、微妙な効果から極端な効果まで、エフェクトごとに程度を設定できます。有効となったエフェクトのインジケータが点灯します。ノブを左いっぱいに戻すとオフになります。FXノブB(右のノブ)でディレイ、タップエコー、スイープエコーから選択し、低～高の範囲でミックス設定できます。有効となったエフェクトのインジケータが点灯し、[TAP]ボタンのインジケータがディレイタイム設定に合わせて点滅します。ディレイタイムを変更するには、[TAP]ボタンをタイミングに合わせて数回押します。ノブを左いっぱいに戻すとオフになります。いずれかのノブを回すと、ディスプレイに現在の設定が一時的に表示されます。

14. [REVERB] ノブ - ルームリバーブの効果を出します。ノブを回している間はディスプレイに現在の設定が表示されます。

15. [CHAN VOL] ノブ - 本機の36種類のユーザープリセットに保存されているアンプ+エフェクト設定の音量バランスを調整します。ノブを回すと、ディスプレイには現在選

択されているアンプモデルの名前と、[DRIVE]/[BASS]/[MID]/[TREBLE]/[CHAN VOL]ノブの現在の設定が一時的に表示されます。

16. [TAP/HOLD FOR TUNER] ボタン - このボタンを複数回タップ(押)してディレイタイムを設定します。タップしたときのBPM(拍数/分)がディレイタイムとしてディスプレイに一時的に表示されます。このボタンを3秒間押さえると、内蔵クロマチックチューナーがオンになります。

17. セレクトノブ - このノブを回して、ディスプレイ上で選択された項目の設定を変更します。

18. ナビボタン - このボタンの上/下/左/右を押すことで、変更したい設定項目を表示させます。

19. [RECORD SELECT] ボタン / [GUITAR]/[MIC/AUX] インジケータ - 録音する入力ソースをギターまたはマイク/AUXに設定します。選択内容がディスプレイと該当インジケータの点灯でわかります。このボタンを2秒間押しただけですると、[AUX]からの入力信号をギターと一緒に録音するか、マイク/エフェクトと一緒に録音するかを選択できます。

20. [SONG/DRUMS] ボタン - このボタンを1回だけ押すと次の選択肢が表示されます。

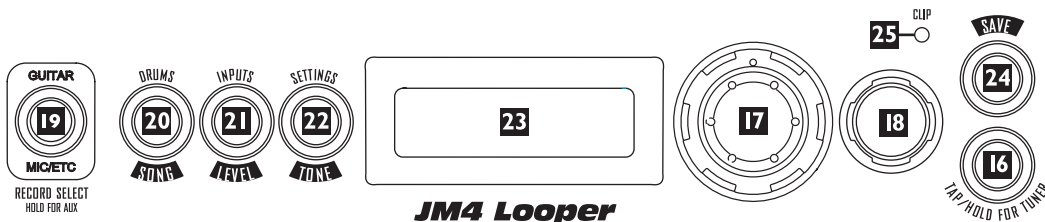
- SONG (ソング)
- DRUMS (ドラムス)
- REC (録音)

もう1回押すと次の選択肢が表示されます。

- Tempo/Pitch Modes (テンポ/ピッチのモード)
- Looping On/Off (ループのオン/オフ)
- ENDLESS PLAY On/Off (繰り返し再生のオン/オフ)
- RECORDER OVERDUB (レコーダーオーバーダブルレベル)
- PLAY PREVIEW (試聴再生のオン/オフ)

21. [LEVEL/INPUTS] ボタン - このボタンを1回だけ押すと次の選択肢が表示されます。

- SONG/DRUMS (ソング/ドラムス音量)



JM4 Looper

- GUITAR TRACK (ギタートラック音量)
- MIC/AUX TRACK (マイク/AUXトラック音量)

もう1回押すと次の選択肢が表示されます。

- MIC INPUT (マイク入力レベル)
- AUX INPUT (AUX入力レベル)
- CD INPUT (CD入力レベル)

22. [TONE/SETTINGS] ボタン - このボタンを1回だけ押すと次の選択肢が表示されます。

- GUITAR TONE PRESETS (ギター音色プリセット)
 - MIC/AUX PRESETS (マイク/AUXプリセット)
- さらにもう1回押すと次の選択肢が表示されます。

- GATE/BOOST ON/OFF (ゲート/ブースト・オン/オフ)
- FX AUTO SELECT ON/OFF (エフェクト自動選択オン/オフ)
- SONGS SET TONE ON/OFF (ソングのトーン自動設定オン/オフ)
- RECORDING SET TONE ON/OFF (レコーディングセットトーン・オン/オフ)
- MIC/AUX EQ (マイク/AUX EQ)
- MIC/AUX DELAY & REVERB (マイク/AUXディレイ&リバーブ)
- MIC/AUX COMPRESSOR (マイク/AUXコンプレッサー)
- OUTPUT ROUTING MODE (出カルーティング・モード)
- PITCH/TEMPO PREVIEW MODE (ピッチ/テンポ・プレビュー・モード)

23. ディスプレイ - 本機の様々な設定を表示するLCD画面で、様々なページが表示されます。

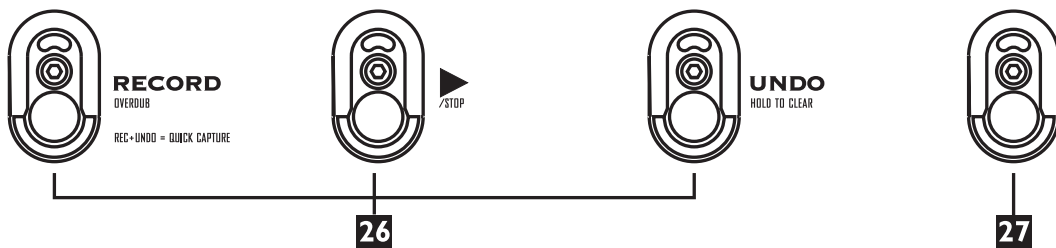
- TRANSFER ALL FROM CARD (すべての内容をカードからトランスファー)
- SAVE RECORDING MIX AS WAV TO CARD (WAVでミックス録音された内容をカードへ保存)
- IMPORT WAV FILE FROM CARD (WAVファイルをカードからインポート)

- FORMAT CARD (カードをフォーマット)
- FIRMWARE VERSION (ファームウェアのバージョン)
- FIRMWARE UPGRADE (ファームウェアのアップグレード)

24. [SAVE] ボタン - このボタンを押すと次の機能が使えます。

- SAVE GUITAR TONE (ギタートーン設定を保存)
- SAVE RECORDING TO INTERNAL (録音内容をインターナルに保存)
- SAVE RECORDING TO SD CARD (録音内容をSDカードに保存)
- ERASE RECORDING (録音内容を消去)
- ERASE SD CARD RECORDINGS (SDカードの録音内容を消去)
- ERASE ALL INTERNAL RECORDINGS (インターナルの録音内容を消去)
- TRANSFER RECORDING TO CARD (録音内容をカードへトランスファー)
- TRANSFER RECORDING FROM CARD (録音内容をカードからトランスファー)
- TRANSFER ALL TO CARD (すべての内容をカードへトランスファー)
- TRANSFER ALL FROM CARD (すべての内容をカードからトランスファー)
- SAVE RECORDING MIX AS WAV TO CARD (WAVでミックス録音された内容をカードへ保存)
- IMPORT WAV FILE FROM CARD (WAVファイルをカードからインポート)
- FORMAT CARD (カードをフォーマット)
- FIRMWARE VERSION (ファームウェアのバージョン)
- FIRMWARE UPGRADE (ファームウェアのアップグレード)

25. [CLIP] インジケータ - 「入力レベルが高すぎるぞ!」と知らせてくれるインジケータです。クリッピングしている入力はLCDに表示されます。ギター入力や[AUX IN]端子からの入力でクリッピングが生じる場合は、接続した楽器または機器のレベルを下げてください。マイク入力でクリッピングが生じる場合は、本機のマイク入力[LEVEL]ノブでマイク入力レベルを下げてください。



26. コントロール・フットスイッチ - 様々な機能をコントロールします。工場出荷時の初期設定では、次の内蔵ジャム／レコーディング機能をコントロールするよう設定されています。

- [RECORD/OVERDUB]スイッチ - 踏むたびに、録音またはオーバーダビングが開始／停止します。
- [▶/STOP]スイッチ - 踏むたびに、ロードされているソング、ドラムループ、レコーディングの再生が開始／停止します。
- [UNDO/HOLD TO CLEAR]スイッチ - 録音後にこのスイッチを短く踏むと、最後に録音した部分がアンドゥ（削除）されます。3秒ほど踏んだままにすると、クリアメニューの設定に従って、録音トラック全体、ギタートラック、マイク／AUXトラック、またはソング／ドラムス設定がクリア（消去）されます。

27. モード・フットスイッチ - フットスイッチで他の要素をコントロールしたい場合に使います。このフットスイッチを踏んで、フットスイッチ・コントロールの次のモードを選択します。

JM4 LOOPER エフェクトプロセッサー

ベストなサウンドをギターアンプに送るには

本機をギターアンプに接続してアンプモデルを使う時は、アンプ側のトーンコントロールを「フラット」にしてください。アンプ側にドライブやゲインコントロールがある場合は最小に設定し、アンプのベースとトレブルは最大に、ミッドは最小に設定します。本機の[AMP MODELS]ノブをOFFの位置に設定し、クリーンサウンドが出せる状態を確認してから、必要に応じて本機のアンプモデルを選択します。色々な設定をためて、ご自分の好みやセットアップに最適な設定を見つけてください。ギターアンプによってはベースとトレブルを最大ではなく中のレベルにすると良い音になることがあります。

アンプ・プリセットの呼出し

本機には幅広い音色やスタイルを網羅した300種類以上のアンプ+エフェクトのプリセットが搭載されています。その多くが有名アーティストによってプログラムされました。

プリセットを選択する時は、次のような画面が表示されます。



- ナビボタンの上を押して、画面左上の領域を反転表示させます（表示は黒地で白抜き字になります）。
 - セレクトノブを回して、「ARTIST BANK」、「STYLE BANK」、「USER BANK」のいずれかを択します。
- ナビボタンの右を押して、画面右上の領域を反転表示させます（表示は黒地で白抜き字になります）。この状態で次の選択をします。
 - 「ARTIST」と「STYLE」のプリセットでは、セレクトノブを回してフォルダのリストが選択します。
 - 「USER」のプリセットでは、セレクトノブを回してユーザープリセットを選択します。
- ナビボタンの下を押してプリセット名を選択します（プリセット名が反転表示されます）。
 - このプリセットが選択されている時にセレクトノブを回すと、同じプリセットループ内の、次または前のプリセットが選択できます。

プリセットの数が多いので、選択しやすいように下記のグループに分けました。

- ARTIST：アーティスト別プリセットは、幅広いスタイルを代表するロックギタリストのチームがプログラムしました。このギタリストたち一人一人にSpider Jamアンプを送り、ユーザーにとってサウンドのアイデアがひらめくような音色のバンクを作ってもらいました。自分のレコードから音色をキャプチャするミュージシャンもいれば、Spider Jamの強烈な音色の可能性を探求した人もいました。彼らの創作したプリセットがJM4 Looperに詰まっています。そのサウンドがあなたのJM4で再現できるわけです。ロックギタリストたちがあなたの家へ来てアンプ設定を手伝ってくれるようなものです。プリセットはアーティスト別に「フォルダ」に入っています。消去はできませんが、設定を変更して36個のユーザープリセットの1つとして保存することができます。
- STYLE：スタイル別プリセットは往年のロックソングのトップ200曲に基づいたものなど、スタイルやソング別に分類されています。各スタイルと曲が出た年代別にフォルダがあります。これも読み出しのみで消去で

きませんが、設定を変更して36種類のユーザープリセットとして保存することができます。

- USER : 36種類の素晴らしいサウンドのプリセットが入っていますが、ご自分のカスタムサウンドに上書きできます。プリセット番号は1A~9Dで、ギタープリセット・フットスイッチ・モードでも呼び出せます。詳細は付録の章をお読みください。工場出荷時の初期設定にリセットすると、ユーザープリセットも初期設定に戻ります。

プリセットの保存

現在のカスタム設定を以下の手順で36種類のユーザープリセットの1つに保存します。

- [SAVE] ボタンを押します。
- セレクトノブを回して「SAVE GUITAR TONE (ギタートーンの保存)」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。ユーザープリセットを変更したものを保存する場合は、そのユーザープリセットの番号が選択されます。それ以外のプリセットを変更した場合は、ユーザープリセットの1Aが選択されます。
- セレクトノブを回して、保存先のユーザープリセット番号を選択します。
- ナビボタンの右を押します。
- 新しいプリセットに名前を付け直す場合は、ナビボタンの左または右を押して変更したい文字を選び、セレクトノブで文字を変更します。
- ナビボタンの下を押して保存します。保存せずにキャンセルするには、[SONG]、[LEVEL]、[TONE] ボタンのいずれかを押します。
- アンプ/エフェクトコントロールパネルのノブ設定すべてと、現在のタップディレイテンポが保存されます。

MIC/AUXのエフェクトプリセット

マイク入力には独立したエフェクトが装備されています。AUX入力をマイク入力とミックスさせると、AUX入力もこのプロセッサーを経由します。以下の手順でこのエフェクトのプリセットを選択します。

- [TONE/SETTINGS] ボタンを2回押して、次のような画面を表示させます。



- セレクトノブを回してプリセットを選択します。

AUX入力の割り当て

[AUX] 端子には、2本目のギターやオーディオソースを接続できます。この端子では、ギター入力とアンプ/エフェクトプロセッサーを共有するか、マイク入力のEQ、リバーブ、ディレイ、コンプレッサーエフェクトを共有する選択ができます。2本目のギターをこの端子に接続する場合は、ギタープロセッサーを選択してください。それ以外は、マイクのプロセッサーを選択します。以下の手順でこの選択を行います。

- [RECORD SELECT] ボタンを2秒間押さえたままにします。
- セレクトノブを回して、「MIXED WITH MICROPHONE (マイクとミックス)」または「MIXED WITH GUITAR (ギターとミックス)」を選択します。

- [SONG/DRUMS]、[LEVEL/INPUTS]、[TONE/SETTINGS] ボタンのいずれかを押して設定画面を終了します。

ギターのノイズゲート

本機にはノイズゲートが搭載されており、ヒス、ノイズを抑えるのに役に立ちます。以下の手順でノイズゲートをオン/オフします。

- [TONE/SETTINGS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「GUITAR GATE/BOOST」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回しノイズゲートをオン/オフします。

この設定はプリセットと一緒に保存、呼び出されます。

ギターのディストーション・ブースト

ディストーション・ブーストも利用できます。これはディストーションペダルを使用し、ディストーション設定を低く出力を高く設定したときのような「音の濁り」が加わります。アンプモデルにギター信号が届く前にブーストするので、レベルの上がった信号がアンプモデルに入り、更に歪んだサウンドになります。

- [TONE/SETTINGS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「GUITAR GATE/BOOST」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- 「GATE/BOOST」設定画面でナビボタンの右を押して「BOOST」を選びます。
- セレクトノブを回しディストーション・ブーストをオン/オフします。

この設定はプリセットと一緒に保存、呼び出されます。

ギターのチューナーモード

[TAP] ボタンを2秒以上押したままにすると、デジタルチューナー機能がオンになります。チューニング中はサウンドがミュートされるので、アンプから音は出ません。任意のボタンを押すと、チューナーモードは解除されます。本機トップパネルのディスプレイにチューナー設定が表示されます。

エフェクトの自動選択 (FX オートセレクト)

フロントパネルでアンプモデルを選択すると、それに合ったエフェクトが自動選択されます。この機能を無効にしたい場合は以下の手順に従ってください。

- [TONE/SETTINGS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「FX AUTO SELECT」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回しFXオートセレクトをオン/オフします。

マイクの [LEVEL] ノブ

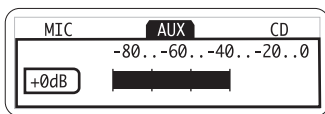
マイクを接続したら、まずこのノブを設定します。

- マイクに向かってなるべく大きな音量で歌い、[CLIP]インジケータがかすかに点灯する程度にノブを回します。
- クリッピングが生じないように、ノブ設定を多少下げます。
- マイクを使用しない時は、接続されていないマイクのプリアンプからノイズが聞こえないよう、常にこのノブを左に回し切っておいてください。

マイク、AUX、CD/MP3の入力レベル

マイク、AUX、CD/MP3の入力を使用する前に、以下の手順でレベルを設定します。

- [LEVEL/INPUTS] ボタンを2回押して、レベル画面を表示させます。



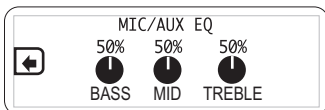
- ナビボタンの左または右を押して、「MIC」、「AUX」、「CD」のいずれかを選択します。
- マイクの場合は歌い、AUXまたはCDの場合は音源を再生して、画面上のメーターを観察します。
- 歌ったり再生した時にピーク値が-20~0の間でメーターが振れるようになるまで、セレクトノブを回して調整します。

ヒント：まず、上図のように+0dBが画面に表示されるようになるまでセレクトノブを回します。次に、接続した機器側で音量を上下させてピーク値が-20~0の範囲内になるよう調整します。機器側からの調整でうまく設定できない場合は、上述のようにセレクトノブを使って調整します。

MIC/AUXのEQ

MIC/AUXのEQは以下の手順でカスタム化できます。

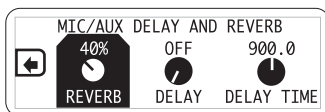
- [TONE/SETTINGS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「MIC/AUX EQ」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- ナビボタンの左または右を押して「BASS (低域)」、「MID (中域)」、「TREBLE (高域)」のいずれかを選択します。
- セレクトノブを回して「BASS、MID」、TREBLEの設定値を変更します。



MIC/AUXのディレイ&リバーブ

MIC/AUXのリバーブとディレイは以下の手順でカスタム化できます。

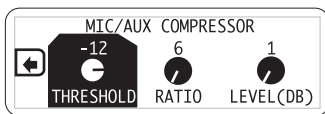
- [TONE/SETTINGS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「MIC/AUX DELAY AND REVERB」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- ナビボタンの左または右を押して「REVERB (リバーブのレベル)」、「DELAY (ディレイのレベル)」、「DELAY TIME (ディレイタイム)」のいずれかを選択します。
- セレクトノブを回してREVERB、DELAY、DELAY TIMEの設定値を変更します。



MIC/AUXのコンプレッサー

コンプレッサーは、音量の小さいサウンドに合わせて音量の大きいサウンドのレベルを抑えることで、演奏全体を聴き易くします。

- [TONE/SETTINGS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「MIC/AUX COMPRESSOR」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- ナビボタンの左または右を押して「THRESHOLD (圧縮が効き始めるレベル)」、「RATIO (圧縮の強さ)」、「LEVEL (圧縮によりレベルが低くなりすぎる場合は、この値を上げてください)」のいずれかを選択します。
- セレクトノブを回して選択項目の設定値を変更します。



初期設定へのリセット

ユーザープリセットへの変更内容を消去し、本機を工場出荷時の初期状態にリセットしたい場合は、以下の手順に従います。

- [TONE/SETTINGS] ボタンを押したまま電源を入れます。

ご注意：これで、カスタム化されたユーザープリセットは、すべて工場出荷時の初期設定に戻ります。リセットする前に、必要なユーザープリセットはバックアップしておいてください。

JM4 Looper でジャム

本機にはロサンゼルス・セッションプレイヤーによる100種類以上のソングとドラムグルーブが搭載されています。MIDIは必要なし! カントリーからファンク、ブルースからパンクまで、本物のバックトラックは、練習、作曲、ギター演奏を楽しむための完璧な伴奏やインスピレーションとなります。

ドラムグルーブのロード

以下の手順でドラムグルーブをロードします。

- [SONG/DRUMS] ボタンを押してソング/ドラムス画面を表示させます。
- ナビボタンの左または右を押して「DRUMS」を選択します。
- セレクトノブを回してドラムグルーブの選択肢をチェックします。リストはテンポ別に整理されており、名前の最初の3文字がBPM(拍数/分)を表します。「PLAY PREVIEW(プレビュー再生)」がオンの場合は、ドラムグルーブ名を反転表示するごとに、その短いクリップが聴けます。
- 希望のドラムを決めたら[▶/STOP] フットスイッチを踏んで再生し、そのリストを表示させたままにしておきます。または、ナビボタンの右を押すと、グルーブを再生した後、リスト画面を終了します。
- [▶/STOP] フットスイッチを踏むごとに、グルーブ再生が停止/スタートします。「ENDLESS PLAY(ループ再生)」がオンの場合は、グルーブがエンドレスにループ再生されます。「ENDLESS PLAY(ループ再生)」がオフの場合は、グルーブは先頭から終わりまで再生された後停止します。

ソングのロード

以下の手順でソングをロードします。

- [SONG/DRUMS] ボタンを押してソング/ドラムス画面を表示させます。
- ナビボタンの左または右を押して「SONGS」を選択します。
- セレクトノブを回してソングの選択肢をチェックします。リストはテンポ別に整理されており、名前の最初の3文字がBPM(拍数/分)を表します。「PLAY PREVIEW(プレビュー再生)」がオンの場合は、ソング名を反転表示するごとに、該当ソングの短いクリップが試聴できます。
- 希望のソングを決めたら[▶/STOP] フットスイッチを踏んで再生し、そのリストを表示させたままにしておきます。または、ナビボタンの右を押すと、ソングを再生した後、リスト画面を終了します。
- [▶/STOP] フットスイッチを踏むごとに、グルーブ再生が停止/スタートします。
- 「ENDLESS PLAY(ループ再生)」がオンの場合は、ソングがエンドレスにループ再生されます。「ENDLESS PLAY(ループ再生)」がオフの場合は、ソングは先頭から終わりまで再生された後停止します。

プレビュー再生

ソング/ドラムグルーブのリストをチェックしながら、その短いサンプルクリップを自動で試聴するかどうかを設定できます。

- [SONG/DRUMS] ボタンを2回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「PLAY PREVIEW」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回しプレビュー再生をオン/オフします。

ループ再生

ソング/ドラムグルーブをエンドレスにループ(リピート)させるか、1回限りの再生にするかを設定するときは次の操作をします。

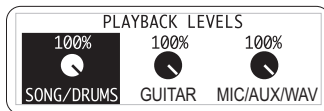
- [SONG/DRUMS] ボタンを2回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「ENDLESS PLAY」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回しループ再生をオン/オフします。

次のようにすると、自由に時間設定した録音内容をエンドレスにループ(リピート)させるか、1回限りの再生にするかを設定することができます。

- [SONG/DRUMS] ボタンを2回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「LOOPING」を反転表示させ、ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回して「LOOPING FOR RECORDING」または「PLAYBACK」をオン/オフさせます。

ソング/ドラム再生レベルの設定

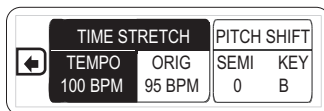
- [LEVEL/INPUTS] ボタンを押してレベル画面を表示させます。
- ナビボタンの左または右を押して「SONG/DRUMS」を選択します。
- セレクトノブを回して再生レベルを調整します。



ソング/ドラムグルーブのタイムストレッチ/トランスポーズ

現在ロードされているソングまたはドラムグルーブのタイムストレッチまたはトランスポーズを、以下の手順で行います。

- [SONG/DRUMS] ボタンを2回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「TEMPO/PITCH/MODES」を反転表示させ、ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回して「TIME STRETCH」と「PITCH SHIFT」画面を表示し、ナビボタンの右を押します。



- タイムストレッチするには、必要に応じてナビボタンの左を押して「TIME STRETCH」を反転表示させます。
 - セレクトノブを回してテンポを変更します。
 - ソングまたはドラムが有効になっている場合は、元のテンポも参考のために表示され、この表示は変わりません。
 - ソングもドラムも有効になっていない場合は、タイムストレッチはBPM(拍/分)値ではなく、パーセント(%)で表示されます。

- トランスポーズするには、必要に応じてナビボタンの右を押して「PITCH SHIFT」を反転表示させます。
 - セレクトノブを回して上下にトランスポーズさせます。
 - ソングが有効になっている場合は、トランスポーズ後のキーも表示されます。
 - ドラムが有効になっている場合は、キーの表示はありません。
- ソングもドラムも有効になっていない場合は、トランスポーズはセミトーン(半音)単位の値ではなく、パーセント(%)で表示されます。

ソング/ドラムグルーヴの速度/ピッチの変更

現在ロードされているソングまたはドラムグルーヴのテンポを、以下の手順で変更します。

- [SONG/DRUMS] ボタンを2回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「TEMPO/PITCH」を反転表示させ、ナビボタンを押します。
- セレクトノブを回して「VARISPEED」を表示させ、ナビボタンの右を押します。
- ドラムグルーヴでは、初期設定のテンポがBPM(拍数/分)で表示されます。セレクトノブを回してテンポを変更します。
- ソングでは、ピッチの変化量と現在のテンポ(BPM)が表示されます。セレクトノブを回してピッチを半音単位で変更します。その結果変更されたテンポが表示されます。

録音後に、その録音の速度/ピッチを変更することはできません。

* 「TEMPO/PITCH」モードの詳細については www.line6.jp/Support/(日本語)、www.line6.com/manuals(英語)で、JM4 Looperアドバンスガイドをダウンロードしてください。

ソングのギタートーン自動設定

初期設定では、ソングをロードすると、それに合ったギタートーンも自動的にロードされますが、この機能をオン/オフできます。

- [SONG/DRUMS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「SONGS SET TONE」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回し「ON」または「OFF」を選択します。

録音内容のギタートーン自動設定

初期設定では、録音した内容をロードすると、その録音で使われているギタートーンも自動的にロードされますが、この機能をオン/オフできます。

- [SONG/DRUMS] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「RECORDINGS SET TONE」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回し「ON」または「OFF」を選択します。

RCAピン端子の出カルーティング

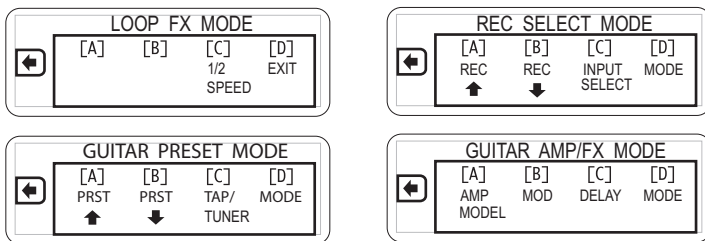
リアパネルのRCAピン端子から出力される信号を選択します。

- [TONE/SETTING] ボタンを3回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「OUTPUT ROUTING」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- JM4 Looperの内蔵スピーカーとRCAピン端子の両方からすべてを出力したい場合は、セレクトノブを回して「NORMAL」を選択します。
- JM4 Looperの12インチ・スピーカーからギター音のみ出力し、それ以外はすべてRCAピン端子から出力する場合は、セレクトノブを回して「PERFORMANCE」を選択します。

フットスイッチ・モードの設定

左の3つのフットスイッチには機能がラベル表示されていますが、表示機能以外にも様々なフットスイッチ・モードが使えます。以下の手順で操作します。

- フットスイッチの一番右の[MODE FOOTSWITCH]を踏みます。
- 「LOOP FX MODE」画面が表示されます。このモードで、フットスイッチCで1/2SPEEDのオン/オフがトグル表示することを確認してください。
- 数秒後にもう一度[MODE FOOTSWITCH]を踏むと「NORMAL MODE」になります。
- 「LOOP FX MODE」が表示されてから2秒以内に[MODE FOOTSWITCH]を踏むと、次の4種類のフットスイッチ・モードが順番に切り替わり、トグル表示されます。



ここではフットスイッチ・モードの選択について基本的なガイドラインを説明します。

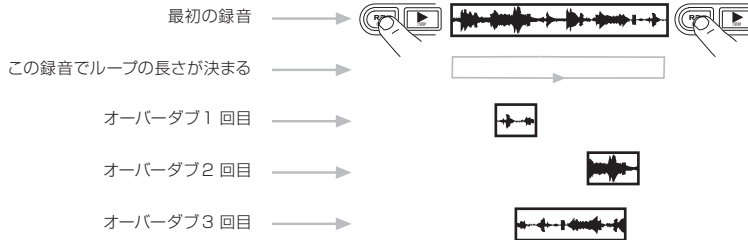
- LCD画面に現在選択されているフットスイッチ・モードが表示されます。
- フットスイッチの一番右の[MODE FOOTSWITCH]を2秒を超えた間隔で踏むと、現在選択されているフットスイッチ・モードとノーマル・モードの間で切り替わり、トグル表示されます。このとき、2秒以内に[MODE FOOTSWITCH]を再び踏むと、フットスイッチ・モードは他のモードに切り替わります。

*フットスイッチ・モードに関する詳細については、www.line6.jp/Support/(日本語)、www.line6.com/manuals(英語)で、JM4 Looper アドバンスト・ガイドをダウンロードしてください。

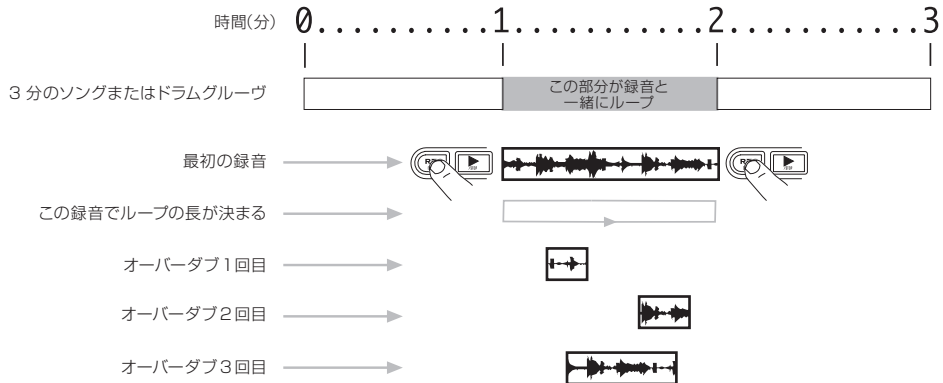
JM4 Looper を使ったループ録音

ループ録音の基本編

本機に搭載のループレコーダーでは、ギターやその他の入力信号を録音し、これを自動的にループさせ、その上からオーバーダビングすることができます。その仕組みは以下の図を参照してください。



ソングやドラムのループも一緒にループさせて録音することもできます。その仕組みは以下の図を参照してください。



ループ録音の際は、録音パートのソングまたはドラムグルーブも合わせて一緒にループしますので、あたかも一緒に録音されたかようになります。

ソングやドラムグルーブを使わない録音

ソングやドラムグルーブを使わないで録音する場合は、以下の手順で操作します。

- [SONG/DRUMS] ボタンを押してソング/ドラムス画面を表示させます。
- ナビボタンの右を押して「REC」を選択します。

- 録音したいソースが接続されていること、2～3章で説明したようにレベルが設定されていることを確認します。
- [RECORD SELECT] ボタンを押して、録音ソースを「GUITAR」または「MIC/AUX」に指定します。AUX 入力、ギターにもマイクにも指定できます。CD/MP3 入力はミックスされてマイク入力と一緒に録音されます。
- [REC/OVERDUB] フットスイッチを踏んでループのスタートポイントを設定し、録音を開始します。
- ギターを弾くか唄を録音します。
- [RECORD/OVERDUB] フットスイッチを踏んでループのエンドポイントを設定します。すぐにループが先頭から再生を始め、ループ再生が続きます。または[▶/STOP] フットスイッチを踏んでループエンドポイントを設定し、再生を停止します。
- ループの録音、再生が終わったら、[RECORD/OVERDUB] フットスイッチを2回踏んで、そのループに別のオーディオをオーバーダビングしていきます。

ソングまたはドラムグルーヴを使った録音

ソングやドラムグルーヴを使って録音する場合は、以下の手順で操作します。

- [SONG/DRUMS] ボタンを押してソング/ドラムス画面を表示させます。
- ナビボタンの右を押して「SONG」または「DRUMS」を選択します。
- 録音したいソースが接続され、2～3章で説明したようにレベルが設定されていることを確認します。
- [RECORD SELECT] フットスイッチを踏んで、録音ソースを「GUITAR」か「MIC/AUX」に指定します。AUX 入力、ギターにもマイクにも指定できます。CD/MP3 入力はミックスされてマイク入力と一緒に録音されます。
- 3章で説明したようにソング/ドラムループをロード、再生します。
- 録音開始地点の1小節前で[REC/OVERDUB] フットスイッチを踏みます。
- 録音は、次の小節の1拍目から始まります。これがループのスタートポイントにもなります。
- ギターを弾くか唄を録音します。
- [RECORD/OVERDUB] フットスイッチを踏んでループのエンドポイントを設定します。すぐにループが先頭から再生を始め、ループ再生が続きます。または[▶/STOP] フットスイッチを踏んでループエンドポイントを設定し、再生を停止します。
- ループの録音、再生が終わったら、[RECORD/OVERDUB] フットスイッチを2回踏んで、そのループに別のオーディオをオーバーダビングしていきます。

インスタント録音

レコーダーを設定せずにすぐにギターのリフだけ録音したいという場合は、[UNDO] フットスイッチを踏んだまま[RECORD] フットスイッチを踏みます。すると、[RECORD SELECT] ボタン・インジケータの「GUITAR」が選択され、ソング/ドラムスがオフになり、レコーダーがすぐにスタートします。録音を終了するには、[▶/STOP] ボタンを押します。

最後の録音内容の消去

一番最後にオーバーダビングした内容を消去するには、[UNDO] フットスイッチを踏みます。

現在のトラックのクリア (消去)

以下の手順でクリア機能を使用します。

- [UNDO] フットスイッチを2秒以上踏みます。
- 「Clear All」が最初に選択されます。
- [UNDO] フットスイッチを踏むと録音されたオーディオが完全に消去され、ドラム/ソング選択内容もクリアされます。
- またはセレクトノブで「Clear Guitar Track」を選択し、[UNDO] フットスイッチを踏むと、ギタートラックだけが消去されます。マイク/AUXトラック、ドラム/ソングの選択内容には影響ありません。
- またはセレクトノブで「Clear Mic/Aux Track」を選択し、[UNDO] フットスイッチを踏むと、マイク/AUXトラックだけが消去されます。ギタートラック、ドラム/ソングの選択内容には影響ありません。
- またはセレクトノブで「Clear Song/Drum Track」を選択し、[UNDO] フットスイッチを踏むと、ドラム/ソングの選択内容だけが消去され、現在録音されているオーディオには影響ありません。

録音トラックの保存

録音トラックを保存すると、録音されたオーディオ、選択されていたソング、レベル、AUX設定、マイクのエフェクト、ギター音色プリセットなどすべての設定内容も保存されます。以下の手順で録音トラックをINTERNAL MEMORYに保存します。

- [SAVE] ボタンを押します。
- セレクトノブを回して「SAVE RECORDING TO INTERNAL」を反転表示させます。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回して保存先の場所を選択します。
- ナビボタンの右を押します。
- 新しい録音トラックの名前を変更するには、ナビボタンの左または右を押して変更したい文字を選び、セレクトノブを回して文字を変更します。
- ナビボタンの下を押して保存します。保存手順を中止するには、[SONG]、[LEVEL]、[TONE] ボタンのいずれかを押します。

録音トラックのロード

以下の手順で録音したトラックをロードします。

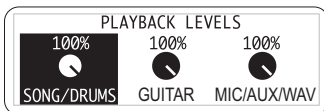
- [SONG/DRUMS] ボタンを押してソング/ドラムス画面を表示させます。
- ナビボタンの右を押して「REC」を選択します。
- セレクトノブを回して録音トラックのリストをチェックします。
- ロードしたい録音トラックを見つけたら、[▶/STOP] フットスイッチを踏んでこれを再生し、リストをそのまま表示しておきます。あるいは、ナビボタンの右を押すと、録音内容を再生してからリスト画面を終了します。
- [▶/STOP] フットスイッチを踏むごとに録音内容の再生が停止/再生されます。

*最新のJM4ファームウェアをアップデートすると、録音内容を直接SDカードに入力/出力することができます。詳細についてはwww.line6.jp/Support/(日本語)、www.line6.com/manuals(英語)で、JM4 Looper アドバンスド・ガイドをダウンロードし参照してください。

レコーダーの再生レベルの設定

ソング/ドラムス、録音したギタートラック、録音したマイクトラックの再生レベルが調整できます。

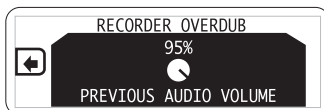
- [LEVEL/INPUTS] ボタンを押します。
- ナビボタンの左または右を押して「SONG/DRUMS」、「GUITAR」、「MIC/AUX/WAV」のいずれかを選択します。
- セレクトノブを回してレベルを設定します。



レコーダーのオーバーダビングレベルの設定

オーバーダビングする時、録音ソースのレベルを設定します。

- [SONG/DRUMS] ボタンを2回押して、機能リストを表示させます。
- セレクトノブを回して「RECORDER OVERDUB」を反転表示させ、ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回してレベルを設定します。



録音トラックの消去

以下の手順で録音トラックを消去します。

- [SAVE] ボタンを押します。
- セレクトノブを回して「ERASE SAVED RECORDING」を選択します。
- ナビボタンの右を押します。
- セレクトノブを回して消去したい録音トラックを選択します。
- ナビボタンの右を押します。
- 消去するにはナビボタンの下を押します。または、消去手順を中止するには、[SONG]、[LEVEL]、[TONE] ボタンのいずれかを押します。

同様の手順でデモを選択し消去することで、録音可能時間を長くすることもできます。

*最新のJM4ファームウェアをアップデートすると、新しく追加されたERASEコマンド(「ERASE ALL INTERNAL RECORDINGS」や「ERASE SD-CARD RECORDINGS」)が利用できます。

詳細については www.line6.jp/Support/(日本語)、www.line6.com/manuals/(英語)で、JM4 Looper アドバンスド・ガイドをダウンロードしてください。

付録A:アンプモデル

モデルになったアンプについて

JM4 Looper には12種類のアンプモデルが搭載されています。

CLEAN

赤のインジケータ: CLEAN

トーンコントロールを調整すると端切れよく爽快なクリーントーン、暖かみのあるジャズトーン、分厚い超低域に、高音の張りのあるキラキラしたサウンドが合います。コーラスとディレイを多少加えれば、究極のクリーンサウンドに!

緑のインジケータ: GLASSY

60年代末期と70年代初期のクリーンサウンドをイメージしました。1973年型Hiwatt®カスタム100を基本にトーンコントロールの範囲を広げ、超低域を締めました。オープンコードでAを弾くと心地よいサウンドが鳴り響きます。

TWANG

赤のインジケータ: TWANG

ブラックフェイス'65 Twin Reverb® やブラックフェイス'64 Deluxe Reverb® など60年代中期のFender® をモデルにしました。カントリー系のピッキング用として、高域端のクラシックなクリスタル感と、ある程度の噛み付きを持たせました。[DRIVE]ノブをかなり上げるとクランチ感が出ます。

緑のインジケータ: TWIN TWANG

このアンプモデルは数々のヴィンテージ・ツイードアンプを基にしています。'53Fender®Tweed Deluxe、'58 Fender® Tweed Bassman®, '60 Gibson Explorer を土台に、ロカビリーサウンドがスイングします。リバーブとスラップエコーを加えれば、「ビー・バップ・ルーラー!」

BLUES

赤のインジケータ: BLUES

'65 Marshall® JTM-45 を3杯、'58 Fender® Bassman® を一さじ、'63 Fender® Vibroverb少々を加え、Suproをふりかけたらどんな具合になるか?今までにないほど大きくてファットでサザン風のブルースアンプが出来上がり。デルタの湿地を思わせるじゅりっとしたクリーンサウンドから、とろりとなめらかでぼちゃっとしたドライブトーンまで変化するアンプモデルです。

緑のインジケータ: CLASS A

褐色のVox® AC-30アンプに、トーンコントロール回路を拡張しました。ビートルズやストーンズでお馴染みの、初期ブリティッシュ・ポップロックのサウンドをキャプチャーしました。

CRUNCH

赤のインジケータ：CRUNCH

'68 Marshall® Plexi 50 Wattをいじっているうちに生まれたサウンドです。この手のMarshall® アンプは、初期のメタルバンドでよく使われました。プリティッシュ・スティール、ナンバー・オブ・ザ・ビースト、ブラックアウトなどのアルバムを聴いてみてください。このクランチサウンドは本家のMarshall® アンプよりもトーンコントロール設定が幅広くなっているので、[DRIVE]ノブ設定が最大でも、中域のへこみをブーストできます。

緑のインジケータ：ON FIRE

プレキシが熱い!このアンプモデルは'68 Marshall® Plexi 100 Watt をベースに、いくつかおまけをつけました。変圧を可能にするVariacと、入力回路の内部をジャンパーでつなぐ設定を再現し、入力端子から炎上するようなあの(エディー・ヴァン・ヘイレンが言うところの)「ブラウン・サウンド」が出ます。「おい、デイヴ、やめろったら!」とデイヴィッド・リー・ロスに叫ぶ声が聞こえてきそう!

METAL

赤のインジケータ：METAL

Mesa/Boogie® Dual Rectifier®をモデルに、このクラシックなサウンドを念入りに補強し、一定のモダンな風味が加わっています。このモンスターのようなサウンドは、引き締まった超低域が巨大でパワフル。しかもタイトでレスポンスも速い。タイトでパンチのあるハイゲインのメタルサウンドにうってつけです。

緑のインジケータ：SPINAL PUPPET

1つのノブだけで音のスペクトル全体をスイープするユニークな中域コントロールを持った、攻撃的なハイゲイン・サウンドを目指しました。[MID]ノブでディストーションの特性を調整します。このノブを最小値にすると、ファズペダルのようなディストーションに。12時の設定ではなめらかでモダンなハイゲインアンプのサウンドを再現。最大値にすると、クラスAサウンドを彷彿とさせます。もちろん、その中間設定もあります。

INSANE

赤のインジケータ：INSANE

Mesa/Boogie® Dual Rectifier® のレッド・チャンネルをずたずたに切り裂いたバージョンです。メタル・レッドの緊迫感とインパクトを組み合わせていますが、バリバリとした太い中域とシャープな噛み付き感、骨を砕き脳を打ち抜く狂気のサウンドです。

緑のインジケータ：80s SOLO

このINSANEモデルでは、手の施しようのない破壊的サウンドとまではいかななくても、入力ゲインの歪みをできるだけ上げました。どうしようもないディストーションに圧倒されながらも、音の輪郭と特徴はしっかり保持しています。その結果、他の小型アンプよりも超低域とキャビネット特性がはっきり得られます。[DRIVE]ノブを上げてパワーを見せつけてください。